

グルジア政治・経済 主な出来事

【2014年5月19日～2014年5月25日】

[当地報道をもとに作成]

平成26年5月30日

在グルジア大使館

主な動き

1. アブハジア・南オセチア

【アブハジア】

▼スルコフ露大統領補佐官がアブハジアを訪問(20日)

・アンクワブ「大統領」と会談。「議会議員」と対談し、アブハジアには政治的な安定性と権力交代があるとして、アブハジアの「主権」が揺るがないことを強調。

▼第8回ロシア・アブハジア社会・経済協力政府間委員会会合(22日)

・ソフミで開かれた会合にはフロポニン露副首相が出席。ロシアによる経済支援、2015年～2017年の投資協力プログラム、アブハジアの予算執行の管理などについて議論。

2. 外 政

▼ピレー国連人権高等弁務官がグルジアを訪問(18日～22日)

・マルグヴェラシヴィリ大統領、ガリバシヴィリ首相、ウスパシヴィリ国会議長、クブラシヴィリ最高裁長官、ナヌアシヴィリ人権保護官、NGO代表者らと会談。南オセチア行政境界線付近の国内避難民の住居を視察した。

・21日、会見で、人権関連の法律の広範な改革が短期間で行われ、司法の独立の強化や矯正施設の状況の改善が実現したことを称賛する一方、法執行機関の監督の強化を求め、少数派の権利の保証について懸念を表明。

・南オセチアが「地球上で最もアクセスの難しい地域の一つになっている」として、南オセチア内の人権状況を憂慮していると述べた。

▼グルジア政府の代表団と欧州委員会との会合(20日～21日)

・ガリバシヴィリ首相、パンジキゼ外務大臣、クヴィリカシヴィリ経済・持続的発展大臣、カラゼ・エネルギー大臣、ツルキアニ法務大臣、ペトリアシヴィリ欧州・欧州大西洋統合担当国務大臣、ピピア農業大臣、ザカレイシヴィリ和解・市民平等担当国務大臣が、6月27日にブリュッセルで予定されている連合協定への署名に先立つハイレベルの相互訪問の一部として、ブリュッセルを訪問。21日、グルジア政府と欧州委員会の会合が行われた。

・グルジアによる連合協定の実施を支援するため、EUからの1900万ユーロの補助金の供与、および、EUとグルジアが2014年～2016年に共同で取り組む優先課題に関して合意。会合後にバローゾ欧州委員会委員長と行った共同記者会見で、「ガ」首相は、合意はグルジアを欧州化するマスタープランであると述べた。

・会見で「バ」委員長は、「連合協定はグルジアの欧州への道を実際にするものであり、我々は欧州との統合の展望を信じている」と発言。また、連合協定は将来を決定するものではなく、将来はグルジアが実施せねばならない改革と前進にかかっていると述べた。「バ」委員長がEUは過去10年で加盟国の数が約2倍の28カ国に増えたと述べたことに対し、「ガ」首相は、29番目の国になるために、グルジアはあらゆる努力を行なうと答えた。

・ロシアについて、「バ」委員長は、プーチン露大統領が「バ」委員長に述べた通り、「グルジアの主権的な権利をロシアが完全に尊重するよう期待する」と述べた。

・会合後に発表された欧州委員会とグルジア政府との共同声明は、6月の地方選挙の民主的な実施、宗教的寛容と少数派の権利の尊重、更なる国内改革の重要性を強調。また、民主制度の更なる強化における野党の役割の重要性、犯罪捜査における透明性と公平性の確保の必要性などについて同意したと述べている。

・「バ」外相はシュミット欧州対外行動庁事務次長、フューレ拡大・近隣政策担当欧州委員、エッティンガー・エネルギー担当欧州委員らと会談。

▼露外務省報道官の発言(22日)

・記者会見で、グルジアとEUの連合協定がグルジア・露の関係の正常化の障害となるかと質問されたルカシェヴィチ露外務省報道官は、いずれの国も自らの進路を選択する権利を有することを尊重するが、連合協定への署名がグルジア・露関係にもたらす結果、金融・経済面の影響について理解することが重要であると答えた。また、国家主権の行使によって他国の権利が侵害されてはならないとして、5月初めにアラサニア国防相が訪米中に「NATOはグルジアに抑止力を配備するべきである」と発言したことを警戒していると述べた。

▼NATO・グルジア委員会会合(24日)

・ブリュッセルで行われた会合にはグルジア側からダラチアシヴィリ国防次官が出席。「ダ」次官によればNATO側はグルジアの国防改革の進展を高く評価した。

・22日にはNATO軍事委員会とカバナゼ・グルジア軍参謀総長らグルジア側の代表団との会合が行われ、軍事協力、グルジア軍特殊作戦部隊の発展計画について議論。「カ」参謀総長はブリードラヴ欧州連合軍最高司令官とも地域的な安全保障環境について会談した。

3. 内 政

▼EUとの連合協定の署名者をめぐる議論

・20日、マルグヴェラシヴィリ大統領はTV番組で自身

が署名するとしつつ、憲法は「大統領は政府の承認の下で国際的な条約に署名する権限を有する」と規定しており、政府との協議が必要であると述べた。

・23日、ガリバシヴィリ首相は政府内で協議をした結果、自身が署名することに決定したとして、大統領とは協議していないと述べた。

▼政府およびグルジアの夢・民主グルジア党がTV局「マエストロ」を批判する声明を発表(20日)

・18日にTV局「マエストロ」が与党連合「グルジアの夢」の公約の達成度などを検証する番組を放送したことについて、20日、政府は、報道が「明らかに偏向していた」との声明を発表。同日、ガリバシヴィリ首相が党首を務めるグルジアの夢・民主グルジア党も「マエストロ」を批判する声明を発表した。

・NGO「Transparency International Georgia」は、政府の声明はTV局の編集方針への介入であると批判。

▼中央選挙委員会が地方選挙に参加する20の政党と4つの政党連合を登録(21日)

・中央選挙委員会が登録した政党連合は「グルジアの夢」、「統一国民運動」、「国会外野党連合」(新右派党と自由グルジア党)、「人民のための自治」の4つ。民主運動・統一グルジア党(ブルジュナゼ党首)とキリスト教民主運動の連合は政党として登録された。

・地方議会選挙は国会選挙と同様に小選挙区比例代表並立制で行われる。比例代表で議席を得るには政党・政党連合は法定得票率4%を越えなければならない。

▼中央選挙委員会が与党連合の候補者2名の立候補資格を認定(21日)

・「選挙前2年間の国内居住歴」という立候補の条件を満たしていないとして、与党「グルジアの夢」のジキア・ルスタヴィ市長候補とカクリア・ポティ市長候補の立候補資格の取り消しを野党が求めていることについて、中央選挙委員会は13名の委員中7名の支持により、両候補者の立候補を認める判断を下した。

・4月25日には、中央選挙委員会は同じ理由により、ゴリ市長選挙への出馬を表明したオクルアシヴィリ元国防相の立候補を認めない決定を下している。野党は二重基準であるとして批判。

▼憲法裁判所がウグラヴァ前トビリシ市長の訴えを認める(23日)

・2013年12月にウグラヴァ・トビリシ市長(当時)が公金流用の容疑で起訴された際、トビリシ市裁判所は、結審までの市長権限の停止についての検察の要求を口頭審理を開くことなく認めた。「ウ」氏は、直接選挙で選ばれた首長の権限の停止は憲法違反であるとして同決定および決定方法を憲法裁判所に提訴していた。

・23日、憲法裁判所は「ウ」氏の訴えを認め、「市民に委託された権限の停止は、自治の原則に対する甚だしい侵害である」として、直接選挙で選ばれた首長の権限の無

期限の停止を許す現行法の規定に不備があると指摘した。

4. 経 済

▼スウェーデン国際開発協力局とグルジア政府が2014年～2020年の協力プログラムに署名(20日)

・トビリシでスウェーデン国際開発協力局(Sida)局長とハドゥリ財務相が署名。EU東方パートナーシップ諸国に約6億3800万ドルを拠出するスウェーデン政府の新しい国際協力プログラムの一環。重点的な分野はEUとの統合、民主主義の強化、人権と法治、環境。

・エングストレーム・スウェーデン国際開発協力大臣は、スウェーデンはグルジアの最大のドナーの一つになったとして、グルジアの欧州への道のりを支援すると述べた。

▼2014年第1四半期の予算計画の達成率(21日)

・政府が国会に提出した報告書によれば、2014年第1四半期の歳入は1,695百万ラリで予定の97.25%。税収は予定を上回った。執行済の歳出は1,616百万ラリで予定の83.7%。

▼2014年1月～4月の貿易収支(23日)

・国家統計局が発表。貿易額3,441百万ドル(前年同期比14%増)、輸出額933百万ドル(同19%増)、輸入額2,508百万ドル(同13%増)。貿易収支は1,576百万ドルの入超。

・貿易相手国の内訳はCIS諸国34%、EU諸国26%、その他40%。国別では貿易額の多い順にトルコ、アゼルバイジャン、ロシア、中国、ウクライナ。日本は第7位の輸入相手国(輸入額90.5百万ドル)。

▼一部の野菜・果物のロシアへの輸出が再開される(26日)

・ロシア農業監督庁によれば、26日からグルジア産の馬鈴薯、胡瓜、キャベツ、茄子、さくらんぼ、桃、李、杏、柿、キウイ、ベリー類のロシアへの輸出が再開された。

4. その他

▼髄膜炎の流行(21日)

・セルゲエンコ労働・保健・社会保障大臣は、21日の時点でウイルス性の髄膜炎の患者が142名確認されていると発表。患者の過半数はトビリシ市内の児童。労働・保健・社会保障省と教育・科学省は、グルジア全国で5年生以下の児童の通学を26日まで停止することを決定。

▼ロシアからアルメニアに天然ガスを送るパイプラインが復旧(23日)

・17日にダリアリ峡谷で起こった地滑りで、ロシアからアルメニアに天然ガスを送るパイプラインが損傷し、ガスの供給が止められていたが、23日、グルジア石油・ガス公社はパイプラインが復旧したと発表。

・20日、内務省は、復旧作業が完了するまでの間、ラルス国境通過点の市民の通過を禁止すると発表。

・24日の時点で犠牲者は3人。4人が行方不明。